

授業概要

人間の情報処理は低次から高次なものへ、感覚、知覚、認知と分類される。すなわち、認知とは人間の最も高次な情報処理を意味しており、認知心理学は主として情報処理の観点から人間の認知過程を論じる研究領域である。本講義では、感覚・知覚・認知の関係、言語、概念、記憶、感情、問題解決について講義し、人間に対する理解を深める。

授業計画

第 1 回	認知心理学とは何か
第 2 回	人間の情報処理における感覚、知覚、認知
第 3 回	言語(1)：言語の獲得と発達
第 4 回	言語(2)：言語の心理学モデル
第 5 回	概念(1)：概念形成のメカニズム
第 6 回	概念(2)：概念の心理学モデル
第 7 回	記憶(1)：記憶の心理学モデル①
第 8 回	記憶(2)：記憶の心理学モデル②
第 9 回	記憶(3)：記憶の諸現象①
第 10 回	記憶(4)：記憶の諸現象②
第 11 回	感情(1)：感情の心理学モデル①
第 12 回	感情(2)：感情の心理学モデル②
第 13 回	感情(3)：感情の行動への影響
第 14 回	問題解決(1)：問題解決の諸現象
第 15 回	問題解決(2)：問題解決と意思決定
第 16 回	筆記試験

到達目標

1. 人間の認知過程の理解を深める。
2. 人間の認知過程は直接に観察できるものではないので、心理学における研究方法、すなわち、どのような調査、実験、分析方法によって認知過程のどのような側面を明らかにしようとしているのかに関する理解を深める。

履修上の注意

具体的な研究方法、実験方法はなるべく授業で課題として体験してもらいたい。また、授業の講義から興味を持ったテーマや研究は自ら積極的に調べたりして知識や理解を深めてほしい。そのための質問や意見はいつでも歓迎する。

予習・復習

参考書として挙げた書籍を読んで、授業と合わせて予習、復習を進めてもらいたい。

評価方法

授業における課題提出（40%）、学期末試験（60%）により総合的に評価する。

テキスト

毎回、配布資料と PowerPoint で講義を進める。参考書としては、以下。

- ・参考書名：心理学の世界 基礎編3 認知心理学
- ・著者名：太田信夫、邑本俊亮、永井淳一
- ・出版社名：培風館
- ・出版年 (ISBN)：2011 (978-4-563-05869-2)